

ホヤ



△ シロボヤは内湾の普通種。係留ロープなどに付着する。(水槽番号2200)

水族館へ行こう!
京都大学白浜水族館

32

白山 義久

ホヤは系統分類学的に

は脊索(せきさく)動物の仲間だ。脊索は体を支える背骨のような役割を果たす弾力のある組織

するにつれて背骨に置き換えられる。役割を終えると脊索は消失するが、いわば人間とホヤは遠い親せき関係にある。

ホヤの仲間は、オタマジャクシのような形をした幼生時期の尾部に脊索を持つ。一般的なホヤは

な器官で、海水をこし取って浮遊物質を食べるようになる。これらの内臓は皮囊(ひのう)と呼ばれる組織で包まれるが、この中には植物の細胞壁を作る物質セルロースが含まれる。体の構造も機能もまるで植物のよう

バナジウムという金属を高濃度で濃縮していることでもよく知られる。濃縮率は海水の1000万倍とされている。

白浜水族館に展示しているのは暖流系のシロボヤなどが、食品として珍重されるのは親潮系の寒冷な海に生息するマホヤである。独特のにおいがする個性豊かな食べ物のため、人によって好き

人間と親せき関係

で、脊索動物は一生の間に必ずこの器官を持つ。

われわれを含めた脊椎(せきつい)動物も発生早期に脊索を持ち、成長

変態して固着生活に入ると、尾部は吸収される。それに伴って脊索も消失し、中枢神経系も他の脊索動物に比べ、痕跡程度の貧弱なものに変化する。

一度変態したホヤは植物のように移動しない。代わりに、たぐさんの繊毛が生えたるいよう

ある。一方でホヤは、血管と立派な心臓を持つなど、動物らしいところもある。心臓は面白いことに血液を送り出す方向が一定していない。定期的に逆転するため、動脈だった血管は次の瞬間静脈になっている。

ホヤの仲間は、血液に

嫌いがはつきりする。食べるのは日本人ばかりではない。お隣韓国の人々は日本人以上にホヤ狂だ。バナジウムは人体でインスリンの分泌を安定させるなどの働きがあることされ、健康食品として注目されつつある。(京都大学瀬戸臨海実験所長)